

お世

故友右田博士

に美事、私の追

憶、高見も賜

はり、感想も

書示し、少くも欣幸

に存候、持士の

卒業は、学界

及び一般社会に於

ける、歎美の事、蹟

存も、晩年、に於

銀行のため、に於

れた、心事、及努力

は、其が、狭き、範囲

に、知られた、のみ、今日

と、幸、いは、私が、一番

好く、之も、知、る、の、し

申、し、に、差、は、大、な、き

や、い、存、候、仍、に

之、も、記録、に、残、し

し、置、きの、故、存、候、

次第、に、市、出、候、

地、す、^出雑、法、に、し、積

者、も、少、な、く、矢、張

埋、藏、に、帰、す、の、た、う

ん、と、存、候、又、貴

書、に、中、村、房、次、郎

氏、に、お、世、に、

と幸一は私が一番
好く之を知りたのし
申しに差支なき
やう存じ候仍し
之を記録に残し
て置きて存じ候
次第に清坐候
地す出雑法に之積
夫き少なく矢張
埋蔵に帰すのたう
んと存じ候更貴
君と中村彦次郎
氏とが之に感興
も持たれ候是
れにし私の微言も
清し候訳にし
本懐の至に候
貴君に對し奉祀
亭、右私の言を
申上候敬具

昭和十二年一月廿日

赤井美五

杉村彦次郎様